



## ●看護部より

こんにちは。看護師の鈴木です。

今回は糖尿病の合併症についてです。

良いコントロールを目指し、合併症予防に努めましょう。



## 糖尿病の合併症①

し

神経障害の「し」



### 糖尿病神経障害

神経が傷つくことで、手足がしびれたり、こむら返り、インポテンツなどが起きます。痛みを感じず、けがなどに気づかなくなったりします。

め

眼（網膜症）の「め」



### 糖尿病網膜症

眼の奥の方には網膜という組織があります。この網膜の血管がもろくなると視力が落ちたり、進行すると失明します。網膜には細かい血管が全体に張りめぐらされているため、血糖値が高い状態では血管に多くの負担がかかります。

じ

腎臓（腎症）の「じ」



### 糖尿病腎症

糖尿病による高血糖状態が長期間持続することによって、腎臓機能が低下する疾患。現在、透析へ移行する原因疾患の第1位です。



## 糖尿病の合併症②



え

壊疽（えそ）の「え」

壊疽とは糖尿病が原因で身体の末端の血行や神経に障害が生じ、小さな傷が治らずに潰瘍化してしまいます。血行障害と感染による壊疽が急速に進み、手遅れになって下肢の切断に至ることもあります。

の

脳卒中の「の」

脳の血管がもろくなり、つまったり破れたりして、その部分の脳が死んでしまいます。命が助かっても半身が動かないなどの後遺症がのこることもあります。



き

虚血性心疾患の「き」

つまり、心臓に十分血がいきわたっていない状「虚血性心疾患」です。動脈硬化で冠動脈の内側が狭くなったり血管のけいれんが原因で、血液が十分に心臓の筋肉（心筋）にいきわたらなくなったとき、心臓は、酸欠（虚血）状態となり、胸痛などの症状としてあらわれます。



### 虚血性心疾患「狭心症」

血液の需要と供給のバランスがくずれ起きる心臓の酸欠状態

運動したり階段や坂道をのぼるなど、普段より酸素を必要とする状況では、通常、心臓は血流量を増やしてそれに対応しようとします。ところが動脈硬化や冠動脈のけいれんにより血液の通り道が狭くなる（狭窄）と血液の供給がまにあわなくなり心臓が酸欠状態となって狭心痛が起こります

### 虚血性心疾患「心筋梗塞」

血管が完全につまり、その先の心筋が壊死する

血管の内側にたまったコレステロールのかたまり（プラーク）に何かの拍子で亀裂が入ると、そこをかさぶたのように血液のかたまりがおおっていきます。このかたまり（血栓）が血管を完全にふさいでしまうと、その先の心臓の筋肉には酸素が届かず細胞が死んでしまうのです。それが心筋梗塞です。

